

授業科目名称 : 芸術論 (実践的教育科目)

授業コード : 23601

授業科目英文名称 : Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
※安田 恭子 (実務経験のある教員)			
展開方法	講義		
ナンバリング	AB111		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	芸術に関する基本用語を理解し、芸術作品の趣旨や内容を説明することができる。	・定期試験	30%
情報収集、分析力	フィールドワークや授業外において、様々な芸術活動に関する情報を集め、興味を持った芸術作品の鑑賞を通して、その作品を分析することができる。	・課題レポート	10%
コミュニケーション力	芸術作品や展覧会について、自分なりの感想を述べ、意見交換をすることができる。	・授業態度、授業への参加度 ・グループディスカッション	10% 10%
協働・課題解決力	PBL (課題解決型学習) として、班別のプレゼンテーションに向け、ディスカッションをグループワークにより実施し、力をあわせて目標を達成する協働と課題解決力を育むことができる。	・プレゼンテーション	10%
多様性理解力	異なる時代や地域における文化の違いが芸術作品にも現れていることを理解し、文化や価値観の違いによる芸術活動の多様性について説明することができる。	・定期試験	30%
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	芸術とは何か、何のためにあるのか、どんな歴史をたどってきたのか、これから何処へ向かっていくのかという問題意識のもと、芸術の存在意義や芸術作品について理解を深める。芸術作品を鑑賞するフィールドワークやディスカッション、学生によるプレゼンテーションを通して感性を鍛え、事物の本質を見極める力を養い、自身の専門領域に活かすことができる人材に育つことをねらいとする。			
アクティブラーニングの類型	①②③④⑥⑦⑧⑩			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	評価は、定期試験60%、課題レポート10%、授業態度と授業への参加度10%、グループディスカッション10%、プレゼンテーション10%の配分でおこなう。授業の振り返りなどでフィードバックを行なう。定期試験では、授業内容に関する理解度を問う。芸術活動の歴史や芸術表現の本質について理解し論述できるかを評価基準とする。			
授業概要	芸術は、人類の長い歴史と共に歩んできた。その誕生から変遷・発展していく様子を、国内外の主要作品を通して概説する。学芸員として美術館・博物館での実践的な鑑賞教育への取り組みを活かし、作品の芸術性や芸術表現の本質について受講生とともに考える。主に扱う分野は、美術、彫刻、建築、文芸、服飾、工芸、音楽である。授業は、パワーポイントを使用した講義形態とし、適宜、受講生の意見や感想を求める。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。			
教科書・参考書・指定図書	教科書：特に定めない。 参考書：授業内で指示する。 指定図書：アラン著・長谷川宏訳「芸術論20講」古典新訳文庫 光文社 2015年			
授業外における学修及び学生に期待すること	美術館、博物館やコンサートホール、劇場などで一流の芸術作品に接する機会をつくり、芸術の良さや楽しさを体感してもらいたい。たまには、いつもと違うジャンルの作品に触れたり、自分でチャレンジしてほしい。			
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習
	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 (ガイダンス) と芸術について考える上で必要な基礎的知識と用語について解説する。	芸術関連用語についての復習と先史時代の予習
	2	先史時代の芸術	先史時代の芸術について概説し、洞窟壁画や土器など日本と世界の作品を通して芸術活動の本質について考える。	先史時代の芸術についての復習と古代の芸術についての予習
	3	古代の芸術	メソポタミア文明、エジプト文明、エーゲ美術、ギリシア美術、ローマ美術などキリスト教誕生以前の芸術について探っていく。 (西暦200年以前)	古代の芸術についての復習と中世の芸術についての予習

4	中世の芸術	キリスト教、ロマネスク・ゴシック美術を中心とした芸術について学ぶ。 (200～1400年)	中世の芸術についての復習と近世の芸術についての予習
5	近世の芸術～ルネサンスを中心に～	ルネサンス美術で開花した人間中心主義の芸術について学習する。 (1400～1700年代前半)	ルネサンスの芸術についての復習とバロックの芸術について予習
6	近世の芸術～バロックを中心に～	イタリア、オランダなどヨーロッパで広がった芸術について探る。 (1600年ごろ)	バロックの芸術についての復習とロココの芸術についての予習
7	近世の芸術～ロココを中心に～	フランスからヨーロッパ他国につたえられたロココの芸術について学んでいく。 (1600年代半ば)	ロココの芸術についての復習と新古典主義の予習
8	近世の芸術～新古典主義を中心に～	新古典主義の芸術について学習する。 (1700～1800年代ごろ)	新古典主義の復習とロマン主義の芸術を復習
9	近世の芸術～ロマン主義を中心に～	ロマン主義、バルビゾン派の芸術について考える。 (1700年代後半～1800年後半)	ロマン主義の復習と写実主義の芸術を復習
10	近世の芸術～写実主義を中心に～	クールベなど絵画やドストエフスキーの文学といった芸術について探っていく。 (1800年代)	写実主義の芸術の復習と印象主義の芸術を予習
11	近世の芸術～印象主義を中心に～	印象主義の絵画、音楽などの芸術に加え、日本の浮世絵版画の影響も学ぶ。 (1800年代後半ごろ)	印象主義の復習と象徴主義の芸術を予習
12	近代の芸術～象徴主義を中心に～	フランスとベルギーの起きた美術や音楽、文学などについて学習する。 (1870年ごろ)	象徴主義の芸術について復習と20世紀芸術の予習
13	20世紀の芸術	アメリカン・ポップアートなど産業の発展とともに生まれた芸術について考える。 (1900年代以降)	20世紀芸術の復習とプレゼンテーションの準備
14	フィールドワーク	佐世保市博物館島瀬美術センターで開催される「ながさきピース文化祭2025 させぼピース展」を鑑賞し、旧石器時代から現代までの芸術についてレポートを作成する。	「ながさきピース文化祭2025 させぼピース展」課題レポートの作成とプレゼンテーションの準備
15	プレゼンテーション	受講生が情報収集・分析した作品について、プレゼンテーションをおこない、意見交換を実施する。	プレゼンテーションの復習
16	定期試験	筆記試験	ノートや資料の整理と試験の準備を行なう